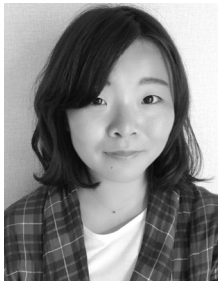
フレッシュトーク

ラグビーを通して世界へ

児玉沙葵　（高 69 回）
法政大学スポーツ健康学部
スポーツ健康学科２年



●こだま・さき
坂城町出身。高校ではラグビー班に所属。ニュージーランドへのラグビー留学を経て、高校３年で花園出場。現在、女子クラブチーム BRAVE　LOUVE に所属。趣味はスノーボードやトレーナーの勉強。チャームポイントは笑顔。

電車が5分前後で来るような目まぐるしい都会の整備されたインフラにも慣れてきた。今私は、法政大学スポーツ健康学部スポーツ健康学科2学年に所属している。

本学部は２００９年に設立され、ヘルスデザインコース、スポーツビジネスコース、スポーツコーチングコースの3コースから成り、教員免許取得やアスレティックトレーナー取得など、多彩な資格取得が可能なプログラムも備わっている。東京都の緑豊かな多摩キャンパスにあって、1学年に約１８０人が在籍している。

私は、幼少期からの夢である女子ラグビー15人制日本代表になるために、また、スポーツと疎遠な国や地域でスポーツの普及やスポーツを通して健康で幸福な暮らし、夢や希望を与えられるような国際的に活躍する人になるため、この学部に進学した。現在は、スポーツコーチングコースを専攻しており、様々なスポーツの指導方法やトレーニング論など指導者に必要な講義を中心に履修している。さらに、機能解剖学やスポーツ心理学、スポーツ栄養学、スポーツビジネス論などの講義も並行して履修している。そのため、スポーツに関する多くの知識を養うことができ、アルバイト先のトレーニング指導や、選手としての身体の管理やトレーニング方法など、多様な面で役立っている。

また、課外活動として、クラブチームでラグビーを行っている。小学2年生の時に兄の影響でラグビーを始め、飯田高校ではラグビー班に所属し、男子選手と共に汗を流していた。高校2年生の時には、ニュージーランドへ3か月間ラグビー留学をした。質の高い練習、指導、環境は新鮮なものであった。ここで数多くの試合を行い、体格差を痛感したと共に、小柄な私が持つ俊敏性など他の選手にはない部分を伸ばすことで、同等に戦える技術を手に入れることができた。また、拙い英語ながら積極的に声を出してコミュニケーションをとったことで、仲間にも信頼されるようになり、プレーの幅も広がった。この貴重な経験は私のラグビースタイルを確立させる大きな転機となった。

帰国後は女子北信越代表の主将として、国際大会や全国大会を通して様々な経験をした。しかし、高校3年生の秋に関東代表として出場した全国大会で大怪我をし、1か月後の花園への出場が絶望的となってしまった。そんなどん底にいた私を多くの人々が救い、支えてくれた。諦めずに信じ続けてくれた人々のおかげで私は再び花園出場という夢を追いかけることができた。そして遂には、高校ラグビーの集大成を女子東日本代表として花園で迎えることができたのだった。成功や挫折を繰り返し、私は夢のひとつを叶えることができた。

大学生になると、学校生活やアルバイトなどで、私の知らない世界ばかりが広がっていた。新たな経験は新鮮で、突き進むことが面白いと感じる反面、社会の理不尽なことなどで、辛く苦しむことも多々ある。だが、そのような経験によって、私は着実に社会を知り、自己を確立し始めたように思える。そして、どんな時でも、帰る場所が長野にある。離れてみて気付く家族の大切さと偉大さ。両親であるというだけでなく、社会の先輩としても私が成長し続ける上で欠かせない存在となっている。

今、心から法政大学スポーツ健康学部を選んでよかったと思う。だからこそ、残り3年間の学生生活を有意義なものにするために勉強やラグビーにおいてたくさん挑戦し続け、後悔のしない日々を過ごしたい。挫折や失敗そして成功を繰り返しながら社会に順応できる人間になるよう、成長し続けていきたい。

冬に行われた 15 人制の関東大会で SH としてパスをさばきながら、ゲームコントロールをしている筆者（左から３人目）